

西南学院大学体育館（ジムナシオン） 建設について

立石 剛

はじめに

本稿は、西南学院大学体育館（ジムナシオン）の建設計画の策定経緯およびその内容について記述している。記述対象となった期間は新体育館建設委員会が設置された2018年1月から新体育館が竣工した2023年6月までである。

新体育館建設委員会は、学長より諮問された次の事項、①新体育館の必要機能およびコンセプト、②新体育館の平面計画、について検討し、答申書を策定することを目的として、部長会議各種委員会として設置が承認されたものである。本稿は、主として新体育館建設委員会議事録、新体育館建設委員会答申書、そして部長会議議事録を参照している。

ここで新体育館建設に関する検討フローを確認しておこう。まず部長会議内各種委員会である新体育館建設委員会で検討し、その結果は部長会議に議案として上程され、最終的に理事会にて承認されることになる。その際、検討の必要に応じて大学総合計画委員会やキャンパスグランドデザインワーキングチーム（以下CGDWT）等での検討がなされることがある。特に、新体育館建設にあたっては後に詳述する日影規制や埋蔵文化財の存在によって建設位置が影響を受けたために、新体育館建設委員会だけでなくCGDWTや総合計画委員会も連動して検討された。これら大学総合計画委員会やCGDWTそして常任理事会での検討の詳細については本稿の記述の対象外としているが、表「新体育館建設に関する会議録」にその検討概要を示している¹、必要に応じて参照いただきたい¹。

1 本稿を執筆するにあたって学生課、施設課、そして秘書課の多くの方々の協力を得た。特に前学生課長の和泉氏および施設課長の洪田氏には資料等を作成していただいた。皆様にご心より感謝申し上げます。なお本稿の内容はすべて執筆者が責任を負っている。

1. 新体育館建設委員会の設置から答申書提出に至るまでの経緯

(1) 新体育館建設基本方針の設定と新体育館建設委員会の設置承認

旧体育館は、1969年の竣工から50年以上が経過しており、2005年の福岡県西方沖地震では、屋根部分が破損する等かなりの損傷を受けた。その後耐震補強工事を実施するとともに、「西南学院大学体育館改築資金」として2006年度から2018年度まで第2号基本金の組入れを実施した。

2012年3月に発表された「大学キャンパスグランドデザイン」計画では、新体育館(屋内プールを含む)は、西南会館とともに「学生活動ゾーン」として位置づけられ、授業のみならず部活動やサークル活動など様々な学生活動に対応する空間とされた。その後2015年12月に大学キャンパスグランドデザインの各フェーズを見直し、新体育館の整備はフェーズ3(2018～2025年)となった。

2018年1月に常任理事会、大学総合計画委員会、そして部長会議にて新体育館建設にあたっての基本方針および新体育館建設委員会の設置と委員構成が承認された。基本方針としては、新体育館の予定面積については現在の体育館、体育館別棟、弓道場の延べ床面積である約9,200㎡程度から検討を開始すること(プールについては一旦除外し、その必要性を新体育館建設委員会にて検討する)、その他に総事業費の想定額、建設位置やスケジュールが承認された。その際、予定面積や建築コストが大幅に増加する場合は、常任理事会にその可否を確認しながら検討を進めていくことになった。

新体育館建設委員会については、設置期間2018年1月から新体育館竣工まで、所管部署は学生部学生課とし、①新体育館の必要機能およびコンセプト、②新体育館の平面計画について検討することとなった。大学設置基準の大綱化前は体育実技が必修であり、全ての在学生在が体育館を利用していたが、大綱化後は必修ではなくなり、学生の利用も少なくなっていたため、新体育館建設委員会は、多くの学生が利用しやすいようなコンセプトを基に検討を進めることが強調された。新体育館建設委員会の構成員は、若干の変動はあるものの、主に副学長(教育・研究担当)(委員長・議長)、学生部長、教務部長、体育館主任、人間科学部教授、大学事務長、学生支援部事務部長、施設課長、学生課長から構成された。これに財務部長、建築顧問、施設課員、学生課員が陪席した。

(2) 日影規制問題の発生とキャンパスグランドデザインの変更

部長会議にて設置が認められたのは2018年1月23日であったが、第1回新体育館建設委員会が開催されたのは同年10月23日と設置から9か月後であった。

その理由は、新体育館建設と同一敷地内にある西南会館の影が隣接する西南学院バプテスト教会および西南幼稚園にかかることが建築基準法に定める日影規制に抵触していると判明したため、西キャンパス全体の見直しを行う必要が生じ、その影響を受けて新体育館建設の協議が一時凍結されたからである。

常任理事会、部長会議、大学総合計画委員会、そしてCGDWTで日影規制への対応および西南会館の老朽化の問題を含めて検討がなされ、さらに福岡市建築指導課との数回にわたる協議が行われた結果、新体育館の竣工年度を2019年度から2021年度に延期すること、そして竣工時より3年以内に現西南会館の解体を行うという方向性が確認された。これを受けて、体育館を利用した学修や課外活動への影響を少なくするために、新体育館建設の位置を南に移すなどの変更が生じるようになった。

(3) 第1回新体育館建設委員会の開催

2018年10月23日によろやく第1回新体育館建設委員会が開催された。委員会開催までの経過についての報告と基本方針についての確認がなされ、続いてコンセプト、現計画(案)における課題・要望事項を抽出するためのアンケート調査についての協議が行われた。

コンセプトについては、新体育館の「基本理念」、「構造や機能のあり方」、「サービスの考え方」、「利用者の対象」、「特徴」などを協議することとし、課題・要望事項を抽出するためのアンケート調査については、正課授業ならびに課外活動に必要な機能等がある程度定まった段階で、調査対象も随時検討しながら、課題・要望等の抽出・調査を実施することになった。協議の過程で、新体育館の建設位置について意見が出されたが、解体から竣工までに約2年間を要し、その期間の正課授業および課外活動の場所の確保の制約から建設位置が提案されている旨の説明があった。

第1回委員会の後に、日影規制問題への対応を軸として、新体育館建設においては西キャンパス全体の視点からも検討されることになった。その際、大学総合計画委員会やCGDWTがキャンパスグランドデザインを再検討し、それが新体育館建設に反映されることになった。

(4) 第2回新体育館建設委員会の開催と基本コンセプトの協議

2019年5月13日に第2回新体育館建設委員会が開催され、第1回委員会と同様の日影規制等の経過報告、体育教員から提出された要望書、そしてスケジュール変更の報告がなされた。スケジュールに関しては2023年4月供用開始から逆算したものが提示された²。

また山崎委員（人間科学部）より、新体育館の基本理念は、①学修・研究の機能を強化した空間、②各種式典に対応できる機能と空間、③本学学生および教職員の健康増進活動を可能とする空間、④児童、障がい者や高齢者を含む地域住民に対する体育館施設の開放可能な空間、⑤各種災害に対応可能な空間、⑥ UNIVAS³ が求める大学スポーツに関する活動が促進可能な空間の6つとしたい旨提案がなされた。

提案された基本理念をめぐっては、全ての項目を理念として掲げるべきという見解と本学学生および教職員に直接寄与する事項を重視すべきであるという見解の間で議論が展開されたが、協議の結果、「基本理念」の①～③を優先事項として基本コンセプトに据え、④～⑥については今後検討を進めていく中で考えていくこととなった。

（5）第3回新体育館建設委員会の開催とプール設置に関する協議

2019年7月10日に第3回新体育館建設委員会が開催され、基本方針で検討することが求められていたプールの設置に関する協議が行われた。キャンパスグランドデザインでは屋内プールの設置が計画されていたが、プール維持コストが屋外プールに比べて20倍ほど高額になることから常任理事会によって設置の有無も含めた再検討が付託されていた。

水泳部にヒアリングを行った結果、プールが学内に無いのはトレーニング環境として厳しい状況であり、また水泳部の指導者およびOB・OG諸氏よりプールを整備して欲しいとの強い要望が出されていたこともあり、これらの状況に鑑みて、半屋外プールの設置を検討するという原案が出された。この原案に対しては、維持費を抑えながら学内にプールを設置することで学生の要望に応じることが出来ることもあり、特に異論が出なかったことから、議題に切り替えて半屋外プールを設置する方向で検討することが承認された。

また新体育館の規模について協議し、今回の協議で出された意見を基に新体育館の規模を検討し直し、次回の委員会にて、改めて、たたき台を提示することとなった。

-
- 2 なお新体育館建設スケジュールは2021年度竣工から2023年4月供用開始に後ろ倒しされたが、その後、CGDWT、大学総合計画委員会、そして部長会議にて正式に議題として承認された。その際、新西南会館の整備スケジュールだけでなく、オリンピック開催や天神地区再開発に伴う建築資材の高騰もスケジュール変更の要因となった。また第2回より委員会構成員の変更がなされた。
 - 3 一般社団法人 大学スポーツ協会（英名 Japan Association for University Athletics and Sport）の略称。 <https://univas.jp/>

(6) 第4回新体育館建設委員会の開催と埋蔵文化財への対応

さて第3回新体育館建設委員会後に福岡市が旧テニスコート内を試掘した結果、埋蔵文化財（元寇防塁）が確認され、当該位置を避けた場所に新体育館建設予定地を変更する必要性が生じた。この事案は西キャンパス全体の整備計画とも関連するために、常任理事会およびCGDWTにて建設予定地変更の検討について報告し了承され、2019年10月に開催された大学総合計画委員会にて、埋蔵文化財を避けた場所に新体育館を建設すること、それに伴って影響を受けるグラウンド用地を確保するために旧碧波跡地をグラウンドに転用することが承認された。

同年10月16日に第4回新体育館建設委員会が開催され、大学総合計画委員会での西キャンパスグラウンド利用の変更決定を受けた新体育館建設位置の変更が報告され了承された。その際、現在のグラウンドよりも狭くなること、松の木も約3分の2を伐採して4～5本残ることも説明された。また同委員会では試掘調査の結果を受けて修正された平面図（延べ床面積）に基づいて、バスケットボールゴールを壁取り付け型から移動式に変更する一方で、器具庫の面積の調整を行うことでサブアリーナやランニングレーンを確保する等説明があり、承認された。

以上の検討結果は、同年10月29日に開催された部長会議にて「新体育館基本コンセプトについて（中間報告）」として報告され了承された。また埋蔵文化財の存在に伴う大学西キャンパスの整備計画の変更についても承認された。

(7) 体育館建替えに係る課外活動団体等への説明会およびヒアリングと

第5回新体育館建設委員会の開催

2019年12月に体育館、西新グラウンド（テニスコート含む）、弓道場利用体育会課外活動団体の現役部員、指導者を対象に説明会を2回実施した。その際、建替えに至る経緯、新体育館建設の基本方針、建設位置、機能、そしてスケジュールを説明の後、質疑応答を実施した。説明会後に、6団体から書面の提出があり、別途5団体と個別面談の場を設けた。

説明会およびその後の要望書提出をうけて2020年2月21日に第5回新体育館建設委員会が開催され、課外活動団体からの要望の確認、要望を踏まえた規模・仕様の変更点、そして新体育館の各機能の割り当てについて協議がなされた。その際、弓道場、多目的室、電気室・機械室、テニスコート、そしてプールに関して変更が提案された。

協議においては、西キャンパスグラウンドの利用方法、更衣室、研究教育機能など多岐にわたる意見が交換されたが、そのうち、弓道場については、新体育館内への移設を主に検討したものの、屋外施設であるものを屋内に組み込むことは困難であるた

めに、弓道部からの要望（射場数の維持）を踏まえて、新西南会館に建設することを申し送る形で検討を進めることになった。そして今後の進め方に関しては、関係各所で協議を重ね、部長会議への報告を行い、課外活動団体への了承を踏まえて、詳細設計のフェーズに移行したい旨を説明した。

（8）第6回新体育館建設委員会の開催と答申書案の承認

第5回委員会の後、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のために一時打ち合わせ等を中断したが、2020年6月には感染防止対策に留意しながら学生課を中心に課外活動団体へのヒアリングを再開し、おおよその了解を得た。

その結果を踏まえて、2020年6月22日に第6回新体育館建設委員会を開催し、新体育館内での各競技施設の割り当てについて報告された。その際、1階部分（各道場等）は、課外活動団体が優先利用できるように配置を行っているが、「柔軟性」という基本コンセプトに基づき、将来的な活動場所の調整は可能である旨報告された。

計6回の新体育館建設委員会での検討を通じて、新体育館建設委員会に課された役割である①新体育館の必要機能およびコンセプト、および②新体育館の平面計画について承認されたことから、それらをまとめた答申書案が提案され、承認された。

2. 新体育館についての「答申書」について

（1）答申書の概要⁴（2020年6月22日新体育館建設委員会承認）

- I. 新体育館建設計画から現在に至るまでの経緯（省略）
- II. 新体育館基本コンセプトについて
1. はじめに

現在の体育館は1969年に竣工し、51年にわたって本学の体育教育および課外活動の拠点としての役割を果たしてきた。今回の新体育館の建設計画は、現在の体育館に加え、共に同様の役割を果たしてきた体育館別棟（1974年竣工）、プール（1970年竣工）の各施設も併せて整備するものである。

新体育館建設委員会では諮問内容を受けて、主に1) 新体育館の基本理念、2) 新体育館に盛り込む機能、3) 総延床面積の算定の3つの事項について検討を行った。

4 答申書内の「I. 新体育館建設計画から現在に至るまでの経緯」は本稿の第1章にて詳細を説明しているため、また「VI. 設計・監理会社選定について（省略）」は公開すべき内容ではないために省略した。

2. 基本理念

新体育館は、以下の3つを基本理念とする。

- (1) 学修・研究の機能を満たす空間
- (2) 本学学生および教職員の課外活動および健康増進活動を可能とする空間
- (3) 各種式典に対応できる機能と空間

3. 新体育館建設のあり方

(1) 機能性

大学スポーツの振興および健康増進活動の実施を可能とする機能性を有した空間を創出する。

(2) 柔軟性

多様かつ変動的な活動ニーズに柔軟に対応できる空間を創出する。

(3) 安全性・快適性

ユニバーサルデザインや環境に配慮した省資源・省エネルギー設備を導入することにより、利用者が安心し、かつ快適に利用できる空間を創出する。

(4) 統一性

東キャンパスや中央キャンパスの新施設同様、赤レンガ調のデザインにより西南学院大学の伝統を未来に伝え、統一感のあるキャンパスのイメージを発信する。

4. 新体育館のサービス対象

(1) 学生

(2) 教職員

(3) 卒業生、地域住民等

なお、(3) 卒業生、地域住民等の利用は、(1) 学生および(2) 教職員の利用状況を考慮し、完成後に段階的に検討する。

5. 新体育館の概要

(1) 現在の体育館、体育館別棟の既存施設が有する機能を盛り込んだ総合体育館とする。

(2) 入学式、卒業式等の式典の実施が可能となるよう、ステージ（可動式）および観客席を設置する。

(3) 様々な状況に応じて活動場所を調整できるよう、課外活動団体の専用競技場ではなく、仕切りのない空間でまとめた共用室として設置する。

(4) 新たに3階部分にランニングレーン、体育館北側にグラウンド利用者のた

めの避暑スペース（ピロティ）、体育館南側に利用者用駐輪場を設ける。

- (5) 体育館利用者のための更衣用ロッカーの充実を図る。
 - (6) 新体育館建設後に建替え予定の「新西南会館（仮称）」との間に連絡通路を設け、利用する学生の利便性の向上を図る。
 - (7) 福岡市との「災害時における施設等の利用協力に関する協定」に基づく設備や備蓄物資保管用スペースを備える。
 - (8) 省エネルギーに配慮した空調および照明設備とユニバーサルデザインを基本とした建物とする。
 - (9) 十分な耐震機能を備えた建物とする。
 - (10) 防犯面にも配慮した建物とする。
6. 新体育館の施設・設備概要（トイレ、階段等共用施設は除く）
- (1) 1階 男女更衣室、事務室、教員室、視聴覚スペース、トレーニング場、共用室
 - (2) 2階 メインアリーナ、サブアリーナ、多目的室、備蓄倉庫、ミーティング室、器具庫、可動式ステージ（式典時用）
 - (3) 3階 サブアリーナ、観客席、ランニングレーン、器具庫
 - (4) その他 エレベーター、観客席車椅子スペース、スロープ
7. 申し送り事項

当初、新体育館機能に盛り込む予定であった弓道場については、競技実施に十分な面積を確保できなかったため、「新西南会館（仮称）」の機能として盛り込むことを申し送る。

Ⅲ. 新体育館建設位置について

新体育館の建設位置については、2019年10月29日開催の部長会議において承認された西キャンパスのテニスコート北側の西新グラウンド内とする。（別紙2「新体育館建設配置計画（案）」のとおり）

Ⅳ. 新体育館の規模について

新体育館棟 建築面積合計	約 9,770㎡
体育館屋内	約 9,210㎡
体育館北側ピロティ休憩所	約 290㎡
体育館南側駐輪場	約 270㎡
プール棟	約 925㎡(25 mプール7レーンおよび管理棟)

平面計画については、別紙1-①の「新体育館平面計画図（案）」および別紙

1-②「新プール棟平面計画図（案）」のとおりである。

V. 新体育館建設スケジュールについて

新体育館の建設スケジュールは別紙3「新体育館の建設スケジュール」のとおりである。東京オリンピック開催に向けて過密な建設状況となり、一時は鉄骨等資材の納期が9か月程度かかる状況もあったが、現状では多少状況が落ち着いたようにも推察される。

しかし、首都圏では今後も公共工事および民間工事ともに多くの工事が見込まれており、加えて新型コロナウイルスの感染再拡大等の状況が予測しにくいこともあるが、竣工時期は2023年6月を予定し、その後約2か月間で引越し等を完了させ、後期から運用を開始する予定である。

VI. 設計・監理会社選定について（省略）

VII. 今後の検討課題について

・課外活動団体の利用調整について

体育施設（別紙①）は原則として授業で使用することが前提であるが、課外活動団体の利用については、利用する団体同士が相互に活動スペースの範囲や日時を調整することとなる。

・現西南会館の建築基準法抵触に伴う措置について

Iで述べているとおり、現西南会館の日影規制抵触によって新体育館の竣工から3年以内に新西南会館を現体育館の位置に新築し、現西南会館を解体する必要がある。

・弓道場について

当初の計画では新体育館4階に弓道場を設置する予定であったが、十分な面積が確保できないことから、今後計画する新西南会館の中に配置を検討する必要性が生じている。それに伴い、新体育館建設時の西新グラウンド拡張は旧碧波寮部分まで行い、弓道場および体育館別棟の範囲は弓道場が新西南会館へ移転した後に整備する予定である。

以上

(2) 答申書のポイント：基本に忠実かつ現代的な体育館を目指して

(1) 学修・研究の機能を満たす空間、(2) 本学学生および教職員の課外活動および健康増進活動を可能とする空間、そして (3) 各種式典に対応できる機能と空間、を基本理念として掲げ、その理念達成のために必要な機能を丁寧に検討してきたことが

らも分かるように、新体育館は大学という教育機関の体育館として「基本に忠実」であることを目指した。

他大学の体育館も視察したが、大学の経営戦略が色濃く反映されているケースも見られた。これに対して本学の新体育館は決して華美ではないが、学生および教職員という最も重要なステークホルダーを軸に据えた基本理念の達成のために、限られた資源や空間のなかで必要な機能を柔軟に実現できるよう丁寧に検討した。また利用者が安心し、かつ快適に利用できるように、省エネルギーに配慮した空調および照明設備とユニバーサルデザインなど現代的な機能は出来るだけ取り入れるようにした。

勿論、財政的に許されるならば豪華な機能をふんだんに導入できただろうが、今回の検討方法のように、本当に必要な機能を見極めて、ぶれることなくその達成に必要な機能のみを検討すれば、華美な機能が導入されるようなことはなかっただろう。新体育館は、教育機関の体育館としての基本に忠実であり、それを実現する現代的な機能を持つものとなったのである。

新体育館建設委員会での答申書承認の後、キャンパスグランドデザインのスケジュールが変更されることとの関係で、CGDWT および大学総合計画委員会にて新体育館・プール棟の図面、配置計画図、新体育館建設スケジュールが提示・報告され、了承された。また2020年7月8日の部長会議にて答申書の内容およびキャンパスグランドデザインの計画変更が承認された。そして最終的に常任理事会にて答申書およびキャンパスグランドデザインの計画変更が承認されたことで、新体育館建設委員会に課された役割が一段落することになった。

3. 新体育館の基本設計から着工まで

(1) 大学新体育館設計者の選定について

答申書およびキャンパスグランドデザインの計画変更が承認されたことを受けて、2020年7月末より設計者などの業者選定が、常任理事会および新体育館建設委員会(第7回および第8回委員会)にて行われ、同年11月5日までに選定された。

(2) 第9・10回新体育館建設委員会の開催と基本設計および実施設計の取り纏め

業者選定後に基本設計が行われ、その中間報告が2021年4月13日開催の第9回新体育館建設委員会においてなされた。その際、答申書(平面図)を基本とし、コスト削減や利便性向上、必要機能の追加を考慮した結果、体育館12か所、プール棟6か所における変更が生じたとの説明があった。新体育館については、屋外トイレの新設、多目的トイレの新設、テラス形状、そして新プール棟については、温浴槽の新設、多

目的トイレの新設が主な変更点として報告され質疑応答がなされた⁵。

この第9回委員会での協議結果を踏まえて実施設計が行われ、その際、主なものとして館内放送機器スペースの位置変更および代替進入口の新設も行われた。実施設計については同年6月11日開催の第10回新体育館建設委員会にて承認された。

(3) LGBTQ に配慮した新体育館の設計について

新体育館建設委員会承認された実施設計案が、2021年6月15日に開催された部長会議において議題として上程された。審議の結果、予算や竣工時期等を考慮した上で、新体育館建設委員会においてLGBTQに配慮した新体育館の設計についての実現可能性を再度検討することを条件に原案が承認された。

審議においてはLGBTQに該当する学生や教職員を含むすべての利用者に配慮すべきとして、設計図に示されている既存のトイレをオールジェンダートイレとして変更し設置すること、多目的トイレの名称を変更すること、西南学院が建学の精神を社会に発信するためにも重要であること、(全学的に)LGBTQ対応について足並みがそろっていなくても部長会議にて検討する余地があれば再考すべきではないかという意見が出された。これに対して建設委員長は、実施設計段階での基本設計に戻って再検討し修正することは予算面およびスケジュール面で難しい調整が生じること、LGBTQに関する大学としての方針が定まっていなから部長会議だけの決定を全学的な方針とすることには不安を感じる事等の意見を述べた。

最終的には、LGBTQに配慮した新体育館の設計について、予算や竣工時期などを考慮したうえで、新体育館建設委員会において実現可能性を再度検討することを条件に、本件は承認された。

部長会議の翌週の2021年6月22日に早速第11回新体育館建設委員会が開催され、LGBTQに配慮した設計の実現可能性について検討がなされた。そこでは、既にLGBTQに配慮した近年の公共施設、他大学の体育館の事例を参考に、設計会社、施設課の一級建築士をはじめとした専門家の意見を踏まえて総合的に判断し、障がい者、LGBTQ、妊婦等、「誰でも使えるトイレ(ユニバーサルトイレ)」を、新体育館およ

5 プール棟において多目的トイレが新設されたのは、2020年7月8日に開催された部長会議において「LGBTQの学生に対する配慮について検討いただきたい。体育館は多目的トイレで対応できると思うが、プールについては、男子トイレと女子トイレしかないため他大学等の実情を調べてご検討いただきたい」旨の意見が出されたことが理由である。

び新プール棟に合計5か所整備することになっていること、さらなるLGBTQへの配慮として、ユニバーサルトイレに更衣ロッカーを設け、トイレの入口には入りやすいピクトグラムを施すことになっていること、そしてLGBTQに配慮した設計について再度検討したが、限られた敷地面積と建築面積、予算、そして竣工時期を念頭に置くと、現状の機能を削減したり、あるいは追加的に設置したりする設計が難しいため、実施設計は現行案を維持することとする旨の説明があった。これに対して特に異論は出されなかったために再提案することを承認し、再び部長会議に上程することになった。

2021年7月7日に開催された部長会議にて新体育館建設委員会での検討結果を報告し、一同はこれを了承した。その際、表示等を工夫することによりLGBTQに配慮した環境を整えること、(体育館以外の)キャンパス内のトイレ環境についてもLGBTQに配慮した設計にすることを検討すること、そして本学においても独自の基本方針を確立し、一般に公表すべきではないかとの意見が出された。

(4) 着工から竣工まで

2021年7月7日開催の部長会議にてLGBTQに配慮した新体育館の設計について報告し了承されたことを受けて、その後は、常任理事会および定期理事会での新体育館の設計についての承認と施工業者の選定など着工に向けての準備が急ピッチで進められ、2021年11月26日に起工式を迎えることができた。これ以降から竣工直前の2023年6月6日まで、事務局と選定された業者との間で30回以上もの打ち合わせが行われた。なお、詳細な内容については機密情報にあたるものもあるので本稿では省略する。

その後、2023年1月16日に開催された第12回新体育館建設委員会にて新体育館の正式名称を「西南学院大学体育館(ジムナシオン)」とすることおよびテニスコートをオムニコート(砂入り人工芝)とすることが承認された。また、常任理事会で、トレーニング機器、体育器具、一般什器の納入業者選定および予算措置が決定され、2023年6月に竣工を迎えた。

4. 所感

最後に、新体育館建設委員会の委員長を担当して分かった特筆すべき点について纏めておきたい。

第一に、新体育館建設を検討する際の基本方針が定められ、新体育館建設委員会はその基本方針の枠内で計画を策定するという方法を取ったことである。基本方針としては、予定面積についてニーズを確認しながら算定すること、想定した総事業費の枠

内で検討すること、そして予定面積や総事業費が大幅に増加する場合は、常任理事会にその可否を確認しながら検討を進めていくことが定められた。その結果、新体育館建設委員会では何をどこまで検討するかが明確になり、慎重かつ柔軟に進めることが可能になったのである。こうした進め方は社会的には当然である。ボトムアップの意思決定プロセスを是とする本学では、全体的方針に沿った進め方が好まれないこともあるが、新体育館建設のような重要なプロジェクトの実施においては、揺るぎない基本方針を明確に定めることが重要であると考え。今後も、実行するプロジェクトの内容に応じて進め方を検討してもよいのではないだろうか。

第二に、日影規制や埋蔵文化財などの予期せぬ課題に対して組織的に協力しながら対応することが出来た点である。本学では各委員会が業務範囲と権限をそれぞれ定めてしっかりと業務を遂行するのであるが、時として各部署間で業務上の連携がうまくいかないことがある。これに対して今回の新体育館建設においては、体育館そのものの計画策定を担当する新体育館建設委員会とキャンパス全体の計画をつかさどるCGDWTおよび大学総合計画委員会が連動しながら柔軟に課題に対応した。こうした部署間での連携がなされたことが建設において重要な役割を果たしたのである。

第三に、LGBTQの方々への対応で浮き彫りになった本学での認識の不十分さについてである。LGBTQの方々への対応については本学でもしっかり検討する必要があることは言を俟たないが、ここで浮き彫りになったのは全学的な認識不足である。新体育館建設委員会、特に事務局はLGBTQの方々への社会的な対応状況など精力的に調査したうえでバランスの取れた対応案を提示していたのであるが、部長会議において厳しい意見をいただいた。その意見は、キリスト教主義という本学の立場という観点からは大変重要なものであったのだが、問題は、議論の過程において、当該事項に関して学生および教職員全体が十分に認識していないと感じたことである。新体育館建設委員会としては全学的な認識が事前に十分にあれば対応しやすいのは言うまでもないが、そうでない場合に事を進めることの難しさを痛感した次第である。当該事項に対して安易にトップダウン型の対応を取らないようにするためには、日頃から様々な場で学生および教職員の理解を深めるための地道な努力が必要である。

最後になるが、新体育館建設が無事に竣工し供用することが出来たこと、新体育館建設委員会の関係者の方々に衷心より御礼を申し上げます。とくに新体育館を充実した研究および教育の場としたいという強い思いで関わっていただいた体育館主任および体育の先生方、学生の充実した課外活動の場にするために大変な調整をしていただいた学生課の方々、そして新体育館という巨額のプロジェクトを実施するという心的負担が大変強い業務を細心の注意を払いながら着実に進めていただいた施設課の方々

のご尽力に心より感謝を申し上げます。

本稿を取りまとめるにあたって、供用開始後の新体育館の利用状況を確認していただいたところ、旧体育館時代に比べて利用者が大幅に増加しているとのことである。滑り出しとしては大変喜ばしい状況である。新体育館が末永く学生および教職員に愛され続けることを心より祈っている。



2023年8月に献堂式が行われた新体育館

表1 新体育館建設に関する会議録

年月日	事項	内容	出典・資料
2016.7.14	キャンパスグランドデザインワーキングチーム(以下、CGDWT)会議	【審議事項等】 1. 報告 1) 新体育館(仮称)建設ワーキングチームの設置について	関係部署や体育館教員を構成員とし、現体育館の問題点をふまえて新体育館の諸機能等を検討すること、2019年度の竣工を目指すことが了承された。
2016.7.21	常任理事会	【審議事項等】 1. 報告 1) 新体育館(仮称)建設ワーキングチームの設置について	関係部署や体育館教員を構成員とし、現体育館の問題点をふまえて新体育館の諸機能等を検討すること、2019年度の竣工を目指すことが了承された。
2016.7.26	部長会議	【審議事項等】 1. 報告 1) 新体育館(仮称)建設ワーキングチームの設置について	関係部署や体育館教員を構成員とし、現体育館の問題点をふまえて新体育館の諸機能等を検討すること、2019年度の竣工を目指すことが了承された。

年月日	事項	内容	出典・資料
2016.7.26	大学総合計画委員会	【審議事項等】 1. 報告 1) 新体育館(仮称)建設ワーキングチームの設置について	関係部署や体育館教員を構成員とし、現体育館の問題点をふまえて新体育館の諸機能等を検討すること、2019年度の竣工を目指すことが了承された。
2018.1.10	常任理事会	【審議事項等】 1. 議題 1) 新体育館建設にあたっての基本方針について 2. 報告 1) 新体育館建設委員会について	・「新体育館建設にあたっての基本方針について」にて、規模、建築コスト、建設場所等を説明し、承認された。 ・当該委員会の構成員(案)を報告し、了承された。以下、構成員 委員長：中馬正博(副学長(教育・研究担当))、委員：伊藤龍峰(学生部長)、北垣徹(教務部長)、大杉晋介(大学事務長)、松崎尚志(施設課長)、小嶋哲(学生部事務部長)、浅田昌吾(学生課長)、高野一宏(体育館主任)、山崎先也(人間科学部教授)
2018.1.16	大学総合計画委員会	【審議事項等】 1. 議題 1) 新体育館建設にあたっての基本方針について 2. 報告 1) 新体育館建設委員会について	・「新体育館建設にあたっての基本方針について」にて、規模、建築コスト、建設場所等を説明し、承認された。 ・当該委員会の構成員(案)を報告し、了承された。
2018.1.23	部長会議	【審議事項等】 1. 議題 1) 新体育館建設にあたっての基本方針について 2) 「部長会議内各種委員会に関する内規」の改正について(新体育館建設委員会の設置)	・「新体育館建設にあたっての基本方針について」にて、規模、建築コスト、建設場所等を説明し、承認された。 ・当該委員会の構成員(案)を報告し、了承された。
2018.1.23	新体育館建設委員会設置	新体育館に関する検討を行うために、部長会議内各種委員会に関する内規に基づき、新体育館建設委員会が設置された。 【検討事項】 1) 新体育館の必要機能およびコンセプト 2) 新体育館の平面計画について 【委員会構成員】 委員長：中馬正博(副学長(教育・研究担当))、委員：伊藤龍峰(学生部長)、北垣徹(教務部長)、大杉晋介(大学事務長)、松崎尚志(施設課長)、小嶋哲(学生部事務部長)、浅田昌吾(学生課長)、高野一宏(体育館主任)、山崎先也(人間科学部教授)	

年月日	事項	内容	出典・資料
2018.2		西南学院バプテスト教会および西南幼稚園の敷地に対する建築基準法が定める日影規制による制約を受けることが判明し、新体育館建設の議論が一時凍結する。	
2018.6.6	常任理事会	【審議事項等】 1. 報告 1) 新体育館建設に関する進捗状況について	新体育館建設に関し、同一敷地内の西南会館が建築基準法に定める日影規制に抵触していることが判明したことの報告および今後の進め方について説明し、了承された。
2018.6.12	部長会議	【審議事項等】 1. 報告 1) 新体育館建設に関する進捗状況について	新体育館建設に関し、同一敷地内の西南会館が建築基準法に定める日影規制に抵触していることが判明したことの報告および今後の進め方について説明し、了承された。
2018.9.18	大学総合計画委員会	【審議事項等】 1. 協議 1) 西キャンパスに関する建替計画の見直しについて	西南会館に関する問題点（建築基準法の問題、老朽化の問題）などにより、体育館の建築計画が遅れていることから、体育館の竣工年度を2019年度から2021年度に延期することを協議し、継続して各種会議体で検討していくことが確認された。
2018.9.25	部長会議	【審議事項等】 1. 協議 1) 西キャンパスに関する建替計画の見直しについて	西南会館に関する問題点（建築基準法の問題、老朽化の問題）などにより、体育館の建築計画が遅れていることから、体育館の竣工年度を2019年度から2021年度に延期することを協議した。
2018.9.27	常任理事会	【審議事項等】 1. 協議 1) 西キャンパスに関する建替計画の見直しについて	西南会館に関する問題点（建築基準法の問題、老朽化の問題）などにより、体育館の建築計画が遅れていることから、体育館の竣工年度を2019年度から2021年度に延期することを協議し、方向性が了承された。
2018.10.18	CGDWT 会議	【審議事項等】 1. 協議 1) 西キャンパスの建替計画等について	西南会館に関する問題点（建築基準法の問題、老朽化の問題）などにより、体育館の建築計画が遅れていることから、体育館の竣工年度を2019年度から2021年度に延期することを協議し、方向性が了承された。

年月日	事項	内容	出典・資料	
2018.10.23	第1回新体育館建設委員会	<p>【審議事項等】</p> <p>1. 報告</p> <p>1) これまでの経過報告について</p> <p>2) 新体育館建設にあたっての基本方針について</p> <p>2. 協議</p> <p>1) 新体育館基本方針（コンセプト）の検討について</p> <p>2) 現計画（案）における課題・要望事項の抽出について</p> <p>3) アンケート調査の検討について</p> <p>4) 今後の新体育館建設委員会の開催日程について</p>	<p>次の2点により、新体育館建設委員会設置（2018.1.23）から第1回開催までに相当の期間を要したことを報告した。</p> <p>① 2018年2月に西キャンパスの日影規制等の制約が判明し、議論が一時的凍結したこと。</p> <p>② 問題確認後、福岡市等への確認・協議を続け、2018年9月に福岡市との協議を経て新体育館竣工後3年以内に西南会館を解体することが部長会議で了承されたこと。</p> <p>続いて、建設規模や建設位置等の基本方針、建設スケジュールの報告の後、本委員会では、「基本理念」、「構造や機能のあり方」、「サービスの考え方」、「利用対象」、「特徴」を検討すること、正課授業や課外活動に必要な機能等がある程度定まった段階で、調査対象も随時検討しながら、課題・要望等の抽出やアンケートを実施することが協議された。加えて、委員である体育教員に教育の視点からの要望を纏めていただくよう依頼した。</p>	181023【議事録】 _第1回_新体育館建設委員会
2019.1		体育館教員から要望書が提出された。		
2019.3.4	大学総合計画委員会	<p>【審議事項等】</p> <p>1. 協議</p> <p>1) キャンパスグランドデザイン計画の課題について</p>	<p>体育館および西南会館の建替えに伴う学生施設整備の再検討について、その他の敷地も含めて総合的に検討する委員会（※）設置が了承された。</p> <p>※ CGDWTの下に関係部署を中心とした検討委員会を設け、課題事項等について検討を行う。</p>	
2019.3.8	部長会議	<p>【審議事項等】</p> <p>1. 協議</p> <p>1) キャンパスグランドデザイン計画の課題について</p>	<p>体育館および西南会館の建替えに伴う学生施設整備の再検討について、その他の敷地も含めて総合的に検討する委員会（※）設置が了承された。</p> <p>※ CGDWTの下に関係部署を中心とした検討委員会を設け、課題事項等について検討を行う。</p>	

年月日	事項	内容	出典・資料
2019.5.31	第2回新体育館建設委員会	<p>【審議事項等】</p> <p>1. 報告</p> <p>1) これまでの経過報告について</p> <p>2) 新体育館建設に関する留意事項（スケジュール等）について</p> <p>2. 協議</p> <p>1) 新体育館基本方針（コンセプト）の検討について</p> <p>【構成員の交代】* 役職改選、人事異動による。</p> <p>委員長: 立石剛（副学長(教育・研究担当)）、委員: 宮原哲（学生部長）、渡邊均（教務部長）、浅田昌吾（施設課長）、和泉秀機（学生課長）</p>	<p>第1回委員会と同様の経過説明を行った後、2023年4月の利用開始から逆算した建設スケジュールの説明と2019年1月に体育教員から要望書が提出された旨を報告した。続いて、基本方針（コンセプト）を検討・協議した。</p> <p>190531【議事録】 第2回 - 新体育館建設委員会</p>
2019.6.17	CGDWT 会議	<p>【審議事項等】</p> <p>1. 協議</p> <p>1) 西キャンパスの建替計画について</p>	<p>2018（平成30）年7月に西南会館3階の天井の一部が崩落する事故が発生したため、新体育館と新西南会館の整備計画を前倒して行う可能性を検討した結果、従来の計画どおり整備計画を進めることとなった。</p> <p>①新体育館の供用開始 2023年4月</p> <p>②現体育館の取り壊し 2023年4月～9月</p> <p>③新西南会館の供用開始 2025年4月</p> <p>④現西南会館の取り壊し 2025年5月～10月</p>
2019.6.19	大学総合計画委員会	<p>【審議事項等】</p> <p>1. 議題</p> <p>1) キャンパスグランドデザイン計画の進行スケジュールの変更について</p>	<p>オリンピック開催や天神地区再開発等の工事需要の増加に伴い、建築資材の調達や工事人員の確保が大変困難な状況であるため、新体育館の竣工年度を2021年度から2023年度へ変更することが承認された。</p>
2019.7.10	第3回新体育館建設委員会	<p>【審議事項等】</p> <p>1. 協議→議題に切り替え</p> <p>1) 屋外プールの整備について</p> <p>2) 新体育館の規模について</p>	<p>図面案に基づいて、新体育館の規模、プール設置について、承認された。</p> <p>なお、プールについて、当初のキャンパスグランドデザインでは、新体育館の中に屋内プールを設置することになっていたが、温水設備、空調等のランニングコストが屋外プールと比較すると20倍程度必要となることが判明し、このランニングコストを長期的に負担することとなるため、財政面も考慮し、計画を変更し、半屋外プールを設置する方向で検討することとなった。</p> <p>190710【議事録】 第3回 - 新体育館建設委員会</p>

年月日	事項	内容	出典・資料
2019.8		テニスコート内を試掘した結果、元寇防塁が確認された。	
2019.8.28	常任理事会	【審議事項等】 1. 報告 1) 大学西キャンパスの試掘調査結果について	テニスコートの一部に埋蔵文化財が存在することが判明したため、新体育館の建設地について検討する必要性が生じたことを報告し、了承された。
2019.10.2	大学総合計画委員会	【審議事項等】 1. 議題 1) 大学西キャンパスの整備計画について	テニスコートの試掘調査の結果、新体育館の建設予定地の一部に埋蔵文化財が存在することが判明したため、埋蔵地を避けた場所に建設すること。また、十分なグラウンド用地を確保するため旧碧波寮跡地をグラウンドに転用することについて提案し、承認された。
2019.10.16	第4回新体育館建設委員会	【審議事項等】 1. 報告 1) 大学西キャンパスの試掘調査結果の報告および新体育館の建設場所について 2. 協議→議題に切り替え 1) 新体育館の規模について	・テニスコートの試掘調査の結果、新体育館の建設予定地の一部に埋蔵文化財が存在することが判明したため、埋蔵地を避けた場所に建設すること、また、十分なグラウンド用地を確保するため旧碧波寮跡地をグラウンドに転用することについて提案し、了承された。 ・「新体育館基本コンセプト」について（中間報告）および図面案に基づいて、延べ床面積等について承認された。
2019.10.29	部長会議	【審議事項等】 1. 議題 1) 大学西キャンパスの整備計画について 2. 報告 1) 新体育館基本コンセプトについて（中間報告）	・テニスコートの試掘調査の結果、新体育館の建設予定地の一部に埋蔵文化財が存在することが判明したため、埋蔵地を避けた場所に建設すること。また、十分なグラウンド用地を確保するため旧碧波寮跡地をグラウンドに転用することについて提案し、承認された。 ・新体育館基本コンセプトについて、基本理念、新体育館建設のあり方、新体育館のサービス対象、新体育館の概要、新体育館の施設・設備概要を報告し、了承された。
2019.12.7、12.9	体育館建替えに係る説明会	以下の6項目を説明の後、質疑応答を実施した。 1. 建替えに係る経緯 2. 新体育館の基本方針および特徴 3. 建設場所 4. 新体育館の機能 5. 今後のスケジュール 6. 各クラブからの意見聴取方法	体育館、西新グラウンド（テニスコート含む）、弓道場利用体育会課外活動団体の現役員、指導者を対象に説明会を実施した。 【参加団体数（人数）】 18団体、延べ47名参加（両日参加した団体有）

年月日	事項	内容	出典・資料	
2020.2.21	第5回新体育館建設委員会	<p>【審議事項等】</p> <p>1. 報告</p> <p>1) クラブからの要望について</p> <p>2. 協議</p> <p>1) 新体育館の規模・仕様について</p>	<p>・2019年12月7日・11日に説明会を実施し、その後、書面や面会にて受けた要望を報告した。</p> <p>・新体育館の規模・仕様について、資料を基に協議した。なお、クラブからの要望を踏まえ、弓道場については、マンションに隣接しており、騒音苦情が来ていることなどから、当初は館内への移設を軸に検討したが、射場数の維持等を踏まえて、新西南会館屋上スペースに建設することを申し送る形で検討を進めることとなった。</p>	200221【議事録】 第5回新体育館建設委員会
2020.4～5	新型コロナウイルス感染拡大防止対策のために一時打ち合わせ等を中断した。			
2022.6		課外活動団体に個別に平面計画の説明を行った。		
2020.6.22	第6回新体育館建設委員会開催	<p>【審議事項等】</p> <p>1. 報告</p> <p>1) 新体育館建設委員の変更について</p> <p>2) 各競技場等の割り当てについて</p> <p>2. 協議→議題に切り替え</p> <p>1) 新体育館建設に関する答申書(案)について</p> <p>【構成員の交代】*人事異動による 委員:三苦正淳(大学事務長)、園田祐二(施設課長)、平山崇(学生支援部事務部長)</p>	<p>・図面案に基づいて各競技場等の割り当てを報告した。</p> <p>・新体育館建設に関する答申書(案)について、説明し、承認された。</p>	200622【議事録】 第6回新体育館建設委員会
2020.6.24	CGDWT会議	<p>【審議事項等】</p> <p>1. 報告</p> <p>1) 大学キャンパスグランドデザインの各フェーズ(整備期間)の変更について</p> <p>2) 新体育館建設の進捗状況について</p>	<p>・新体育館と同一敷地内にある西南会館が建築基準法に定める日影規制に抵触していることが判明し、福岡市建築指導課との協議の結果、新体育館竣工時から3年以内に現西南会館の解体を行うことで新体育館の仮使用が認められることとなったため、新西南会館と新学術研究所の建替えの順番(フェーズ)を変更することを報告し、了承された。</p> <p>・新体育館・プール棟の図面、配置計画図、新体育館建設スケジュールを提示・報告し、了承された。</p>	

年月日	事項	内容	出典・資料
2020.7.3	大学総合計画委員会	<p>【審議事項等】</p> <p>1. 議題</p> <p>1) 大学キャンパスグランドデザインの各フェーズ（整備期間）の変更について</p> <p>2. 報告</p> <p>1) 新体育館建設の進捗状況について</p>	<p>・新体育館と同一敷地内にある西南会館が建築基準法に定める日影規制に抵触していることが判明し、福岡市建築指導課との協議の結果、新体育館竣工時から3年以内に現西南会館の解体を行うことで新体育館の仮使用が認められることとなったため、新西南会館と新学術研究所の建替えの順番（フェーズ）を変更することを提案し、承認された。</p> <p>・新体育館・プール棟の図面、配置計画図、新体育館建設スケジュールを提示・報告し、了承された。</p>
2020.7.8	部長会議	<p>【審議事項等】</p> <p>1. 議題</p> <p>1) 新体育館建設に関する答申書について</p> <p>2) 大学キャンパスグランドデザインの各フェーズ（整備期間）の変更について</p>	<p>・新体育館建設についての答申書を提示し承認された。</p> <p>・新体育館と同一敷地内にある西南会館が建築基準法に定める日影規制に抵触していることが判明し、福岡市建築指導課との協議の結果、新体育館竣工時から3年以内に現西南会館の解体を行うことで新体育館の仮使用が認められることとなったため、新西南会館と新学術研究所の建替えの順番（フェーズ）を変更することを提案し、承認された。</p>
2020.7.9	常任理事会	<p>【審議事項等】</p> <p>1. 議題</p> <p>1) 新体育館建設に関する答申書について</p> <p>2) 大学キャンパスグランドデザインの各フェーズ（整備期間）の変更について</p>	<p>・新体育館建設についての答申書を提示し、承認された。</p> <p>・新体育館と同一敷地内にある西南会館が建築基準法に定める日影規制に抵触していることが判明し、福岡市建築指導課との協議の結果、新体育館竣工時から3年以内に現西南会館の解体を行うことで新体育館の仮使用が認められることとなったため、新西南会館と新学術研究所の建替えの順番（フェーズ）を変更することを提案し、承認された。</p>
2020.7.30	常任理事会	<p>【審議事項等】</p> <p>1. 議題</p> <p>1) 大学新体育館設計者総合評価選定に関する提案依頼業者について</p> <p>2) 大学新体育館設計者総合評価選定要項書について</p>	<p>・設計・監理会社へ設計監理業務の見積書と提案資料の提出依頼を行うことを提案し、承認された。</p> <p>・「新体育館 設計者総合評価選定 要項書」を提案し、承認された。</p>
2020.9.2	第7回新体育館建設委員会	<p>【審議事項等】</p> <p>1. 協議</p> <p>1) 新体育館設計者総合評価選定の評価方法について</p>	<p>2020年9月18日に設計・監理会社からの提案書・評価資料を配付し、それらを基に評価することとなった。</p>

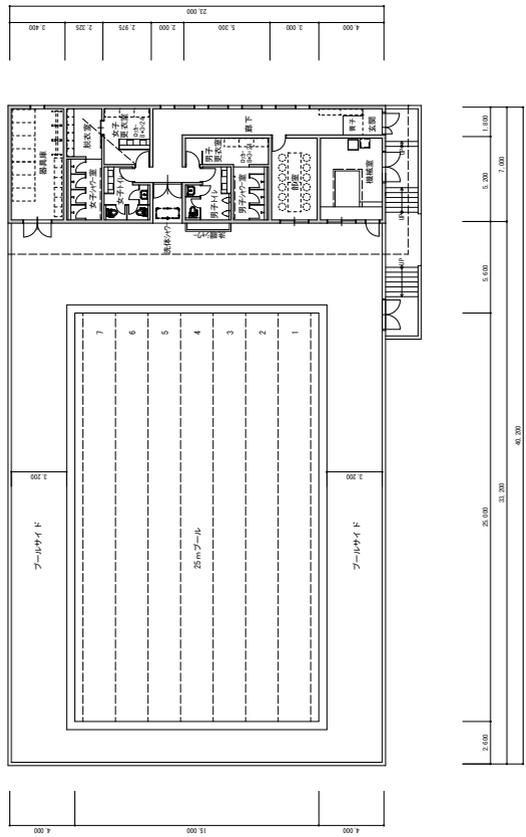
年月日	事項	内容	出典・資料
2020.9.28	第8回新体育館建設委員会	【審議事項等】 1. 協議 1) 新体育館設計者総合評価選定について	新体育館設計者選定総合評価結果を公表し、推薦案（A社）が承認された。承認にあたっては、いくつかの条件が付された。 200918【議事録】 _第8回_新体育館建設委員会
2020.10.8	常任理事会	【審議事項等】 1. 議題 1) 大学新体育館設計者総合評価選定について	提示された設計・監理業務の見積書と提案資料に対する、選定結果、選定理由、今後の検討事項を説明し、設計・監理会社をA社とすることが条件付きで承認された。
2020.11.5	常任理事会	【審議事項等】 1. 議題 1) 大学新体育館の設計・監理会社選定について	外観立面図案と設計・監理業務の見積金額を説明し、設計・監理会社としてA社を選定することを提案して承認された。
2020.12.18	大学総合計画委員会	【審議事項等】 1. 議題 1) 大学第14次財政計画の財政シミュレーションについて	「中長期計画に基づく要望等」で、キャンパスグランドデザインに基づく新体育館の施設設備費用および旧体育館の解体費用について計上したことについて、説明し了承された。
2021.4.13	第9回新体育館建設委員会	【審議事項等】 1. 報告 1) 新体育館の設計について（中間報告） 2) 新体育館建設委員の変更について 【構成員の交代】* 役職改選による。 委員：工藤栄一郎（学生部長）	基本設計を取り纏めるにあたり、基本計画図（答申）からの主な変更点と基本設計図、基本計画図を説明し、了承された。 【主な変更点】 1. 新体育館 ①屋外トイレの新設 ②多目的トイレの新設 ③テラス形状の変更 2. 新プール ①温浴槽の新設 ②多目的トイレの新設 210413【議事録】 _第9回_新体育館建設委員会
2021.4.22	常任理事会	【審議事項等】 1. 報告 1) 大学新体育館の設計について（中間報告）	基本設計を取り纏めるにあたり、基本計画図（答申）からの主な変更点と基本設計図、基本計画図を説明し、了承された。
2021.6.11	第10回新体育館建設委員会	【審議事項等】 1. 議題 1) 新体育館の設計について	基本設計を取り纏めるにあたり、基本計画図（答申）からの主な変更点と基本設計図、基本計画図を説明し、承認された。 【主な変更点】* 第9回新体育館建設委員会後 1. 新体育館 ①館内放送機器スペースの位置変更 ②代替進入口の新設 2. 新プール 無し 210611【議事録】 _第10回_新体育館建設委員会

年月日	事項	内容	出典・資料
2021.6.15	部長会議	<p>【審議事項等】</p> <p>1. 議題</p> <p>1) 新体育館の設計について</p>	<p>基本設計を取り纏めるにあたり、基本計画図（答申）からの主な変更点と基本設計図、基本計画図を説明し、次の条件付きで承認された。</p> <p>【条件】LGBTQに配慮した新体育館の設計について、予算や竣工時期を考慮したうえで新体育館建設委員会において実現可能性を再度検討すること。</p>
2021.6.22	第11回新体育館建設委員会	<p>【審議事項等】</p> <p>1. 協議</p> <p>1) LGBTQに配慮した新体育館の設計について</p>	<p>210622【議事録】 _第11回_新体育館建設委員会</p> <p>2021.6.15の部長会議からの付託事項を受けて、再検討したが、限られた敷地面積と建築面積、予算、竣工時期を念頭に置くと、現状の機能を削減したり追加設置したりする設計が難しいため、実施設計は現行案を維持することを提案し、了承された。</p>
2021.7.7	部長会議	<p>【審議事項等】</p> <p>1. 報告</p> <p>1) LGBTQに配慮した新体育館の設計について</p>	<p>2021.6.15の部長会議からの付託事項を受けて、再検討したが、限られた敷地面積と建築面積、予算、竣工時期を念頭に置くと、現状の機能を削減したり追加設置したりする設計が難しいため、実施設計は現行案を維持することを報告し、了承された。</p>
2021.7.8	常任理事会	<p>【審議事項等】</p> <p>1. 議題</p> <p>1) 新体育館の設計について</p> <p>2) 大学新体育館施工見積依頼業者について</p>	<p>・実施設計を取り纏めるにあたり、基本計画図（答申）からの主な変更項目、実施設計図・基本計画図の説明ならびにLGBTQに配慮した新体育館の設計について提案し、承認された。</p> <p>・施工業者への見積依頼を提案し、承認された。</p>
2021.7.20	定期理事会	<p>【審議事項等】</p> <p>1. 報告</p> <p>1) 大学新体育館の設計について</p>	<p>・実施設計を取り纏めるにあたり、基本計画図（答申）からの主な変更項目、実施設計図・基本計画図の説明ならびにLGBTQに配慮した新体育館の設計について提案し、承認された。</p>
2021.10.21	常任理事会	<p>【審議事項等】</p> <p>1. 議題</p> <p>1) 大学新体育館施工業者の選定について</p>	<p>施工業者へ見積依頼を行い、3社から提出された見積書の結果、B社とすることを提案し、承認された。</p>
2021.11.4	課長会議	<p>【審議事項等】</p> <p>1. 報告</p> <p>1) 大学新体育館・プール棟（仮称）新築工事について</p>	<p>工事期間、工事場所、工程表など工事概要を報告した。</p>

年月日	事項	内容	出典・資料
2021.12.3	定期評議員会	【審議事項等】 1. 報告 1) 大学新体育館の設計について	実施設計を取り纏めるにあたり、基本計画図(答申)からの主な変更項目、実施設計図・基本計画図の説明ならびにLGBTQに配慮した新体育館の設計について報告し、了承された。
2021.12.7	第1回定例打ち合わせ	本学、設計・監理会社、建設会社の3者による建設に向けた定例打ち合わせの実施。	以後、2023.6.6まで計37回の打ち合わせを実施した。
2023.1.16	第12回新体育館建設委員会	【審議事項等】 1. 協議 1) 新体育館の名称について 2. 報告 1) テニスコートの仕様変更について	・名称案を3案提示し協議した結果、「西南学院大学体育館(ジムナシオン)」とすることが了承された。 ・硬式テニス部からの「体育館建設に伴うテニスコート改修の要望の変更について」の依頼文書に基づき、5面全てをオムニコートに改修することを報告し、了承された。
2023.3.30	常任理事会	【審議事項等】 1. 議題 1) 新体育館トレーニング機器の納品業者選定について	各社見積金額の結果、C社とすることを提案し、必要性を再確認のうえ、経費削減に努めることを条件に承認された。
2023.3.31		新体育館建設委員会構成員へ新体育館の名称の由来を説明する銘板を設置することをメール報告	
2023.4.13	常任理事会	【審議事項等】 1. 報告 1) 新体育館トレーニングルーム機器の設置の必要性について	トレーニングルーム機器設置の必要性と、個別の機器の見積書を提示・説明し、了承された。
2023.6.15	常任理事会	【審議事項等】 1. 議題 1) 新体育館・プール棟の一般什器納品業者選定および発注について	各社見積金額の結果、D社とすることを提案し、承認された。
2023.6.22	常任理事会	【審議事項等】 1. 議題 1) 新体育館・プール棟の体育器具納品業者選定および発注について	各社見積金額の結果、E社とすることを提案し、承認された。
2023.6.30	新体育館竣工		
2023.8.29	新体育館献堂式		
2023.9.2	新体育館オープンセレモニー		

230116【議事録】
第12回新体育館建設委員会

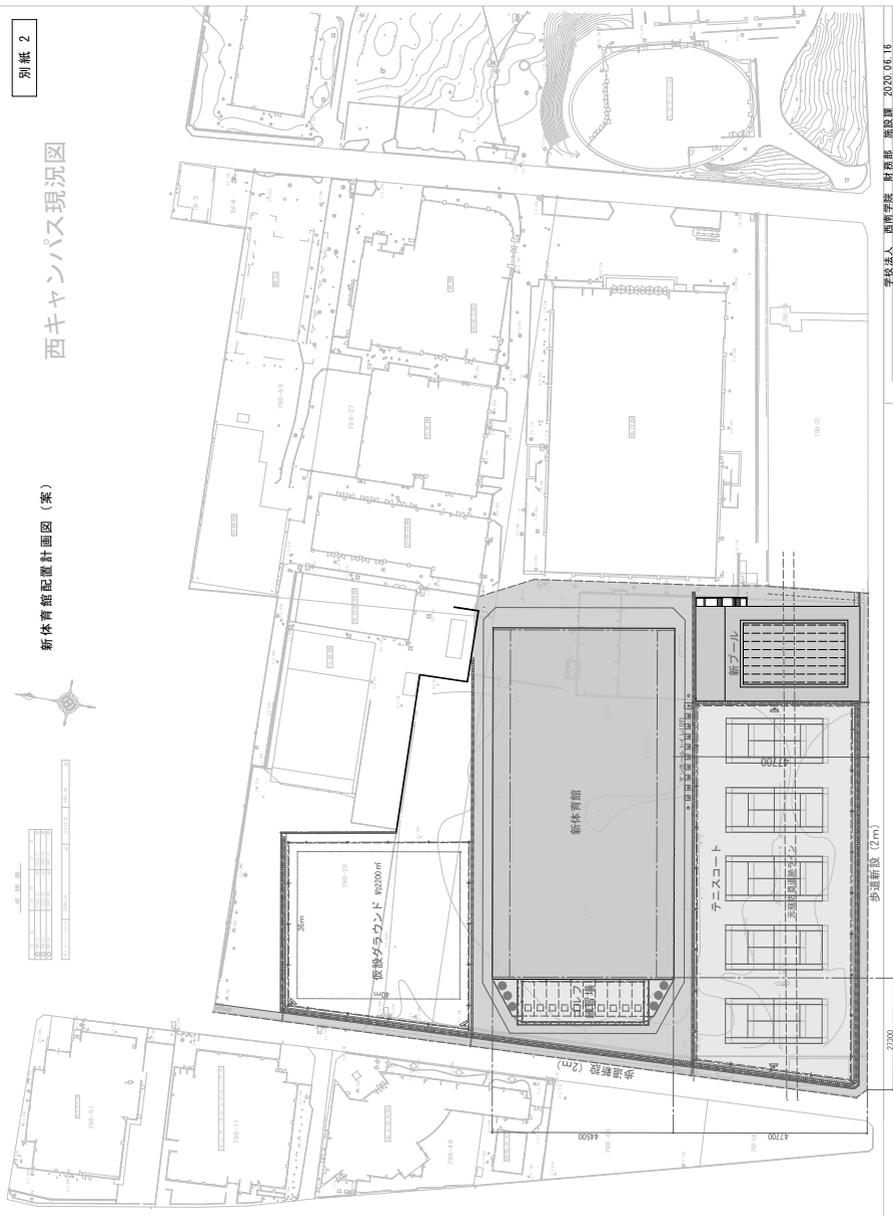
新プール様平面計画図（案）
（7レーン）



*行政生舎（建築検査課・消防課）協議、協議済により一部変更になる場合があります。
 *構案設計、協議設計協議、協議済により一部変更になる場合があります。

西キャンパス現況図

新体育館配置計画図(案)



「新体育館建設スケジュール」【基本・実施設計→新体育館竣工→現体育館解体→新西南会館竣工→現西南会館解体】

	2021年度												2022年度												2023年度												2024年度											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
新体育館設計図書 新体育館建設委員会	基本計画策定 計画書作成 設計図書																																															
新体育館基本設計 ブループリント業務	基本設計 (27ヶ月) 設計図書 制作完了 制作完了 制作完了																																															
新体育館基本設計・実施設計業務	基本設計 (27ヶ月) 設計図書 制作完了 制作完了 制作完了																																															
工事監理業務													工事監理業務 (18ヶ月)																																			
建設工事業務													新プール解体工事												本体工事期間 (18ヶ月)												テニスコート・グラウンド整備											
テニスコート・グラウンド整備													新プール解体工事												本体工事期間 (18ヶ月)												テニスコート・グラウンド整備											
別業工事・引渡し													新プール解体工事												本体工事期間 (18ヶ月)												テニスコート・グラウンド整備											
旧体育館解体																																					新体育館 仮使用期間 (3年間) 2026年6月まで											
(参考)																																																
(天海ビッグバンの主な事業)																																																
天海ビジネスセンター 旧本小中学校跡地活用事業 (オフィス・住宅・公園)	工事期間												工事期間												工事期間												工事期間											
榎戸川街区建替プロジェクト第1期事業	工事期間												工事期間												工事期間												工事期間											
大阪万博	工事期間												工事期間												工事期間												工事期間											

※2019年にナトリウム関連の建設がピーク。その後は月～2年は、建設業界の仕算目は多いまま推移する見込み
 ※2019年時点では、資料(特に建築)の集約が80%未満から60%未満に減少し、資料(特に建築)の集約が80%未満に減少する見込み
 ※現西南会館の運法状態是正のために、新体育館竣工から新西南会館建設、現西南会館の解体まで3年以内完了する必要がある。